

## 令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

|      |   |       |        |       |       |
|------|---|-------|--------|-------|-------|
| 学校番号 | 6 | 学 校 名 | 熱海高等学校 | 校 長 名 | 土屋 俊彦 |
|------|---|-------|--------|-------|-------|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

|   | 取組目標                                                                                 | 成果目標                                          | 達成状況                                       | 評価 | 成果と課題                                                                                                           |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア | 日々の生徒との関わりを大切に、個に応じた「温かく」かつ「丁寧」な指導を充実させ、欠席、遅刻、早退の減少を図り、中途退学者数の減少につなげる。               | 1日あたりの全校生徒欠席人数8人・遅刻人数2人・早退人数0.5人未満にする。        | 1日あたりの全校生徒欠席人数5.4人・遅刻2.1人、早退1.1人（2学期末時点）。  | B  | 昨年度1日あたり欠席4.7人、遅刻2.8人、早退0.5人と比べると遅刻と早退がやや増えている。遅刻者数と早退数が目標を達成できなかったため、次年度の課題として、家庭・学年部・養護教諭等との連絡を継続的にとり、減少に努める。 |
|   | 学校全体で前向きに成長を求める雰囲気と環境をつくる。指導基準を統一し、全教員で指導に当たることで生徒の規範意識を高める。                         | チケット指導件数前年比90%。<br>生徒指導件数前年比90%。              | チケット指導件数前年同月比61.8%（1/14時点）。<br>生徒指導件数9.7%。 | A  | チケット指導件数については、在籍生徒1人あたり1.66枚（R5）から1.23枚（R6）に減少した。前向きに自己成長を求める生徒が増加している。生徒会が中心となり学校生活のルールを見直せると良い。               |
| イ | 知的好奇心を喚起するような魅力ある授業を実践し、育成すべき「資質・能力の三つの柱」の向上を図る。丁寧で分かりやすい授業、家庭学習の習慣化を推進し、基礎学力を定着させる。 | 公開授業の教員参加率100%（事後評価の実施）公開研究授業を年2回実施する。        | 公開授業の参加率は100%を達成し、公開研究授業も年2回実施した。          | B  | 年2回の公開研究授業では、すべての教員が公開授業を実施した。今後は公開研究授業の期間と時間割を考慮し、積極的な相互の授業参観を促進したい。                                           |
|   |                                                                                      | 教員研修を学期に1回以上行うことにより、授業評価「授業が分かる生徒」75%以上達成させる。 | 学習状況調査を12月に実施し、授業が分かる生徒は77.1%であった。         | A  | 昨年度の78%から微減ではあるが、目標数値には届いた。今後は授業を理解できていない生徒へ、学期末の補講ではなく、それ以前の時期でのサポート体制の整備が課題である。                               |
|   |                                                                                      | 生徒の家庭学習時間30分以上の生徒を60%達成する。                    | 自発的学習状況の調査を12月に実施し、30分以上の家庭学習者数は40%であった。   | C  | 一昨年度34.9%、昨年度36.9%に比べると改善傾向がみられるが、目標である60%以上に向け進路実現のために家庭学習の必要性を生徒に伝え、自学自習の促進が課題である。                            |

様式第3号

|   |                                                                                                                                                                             |                                                                     |                                                      |   |                                                                                                                                                    |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ウ | <p>「進路の手引き」を有効活用し、計画的に生徒のキャリア形成のための進路指導を実施する。</p> <p>地元企業や大学、専門学校等との連携により進路行事を充実させ、進学先、就職先の開拓につなげる。</p> <p>教職員間で情報共有を図り、生徒が意欲的に、より高い進路希望を掲げて地道に努力するよう、その実現に向けての実力を養成する。</p> | 「キャリア通信」を月1回以上発行することにより、進路意識の向上85%以上。                               | キャリア通信は評価時点で7回発行した。心理意識の向上は58%となった。                  | B | キャリア通信を用いた進路情報の提供には課題を残す結果となった。数多い進路情報から有益性の高い情報を焦点化し、生徒の進路選択の思考に揺さぶりをかける話題提供が課題である。                                                               |
|   |                                                                                                                                                                             | 進路行事参加率100%。<br>保育・介護体験実習及び類型実習の参加率100%、インターンシップ・オープンキャンパスの参加率100%。 | 3年進路行事、2年インターンシップまたはオープンキャンパス、1年保育・介護体験実習いずれも100%参加。 | A | キャリアカフェや校外学習など各学年の進路行事には、事前準備や事後反省も含め積極的な参加がみられ、職業観や企業観の育成に寄与した。求人動向や生徒の進路動向に応じ、企業や上級学校とのさらなる連携を図りたい。                                              |
|   |                                                                                                                                                                             | 第一志望進路先への合格・内定85%以上。                                                | 就職・進学合わせて92%であった。                                    | A | 就職95%・進学89%。面接練習の個別指導を重ねたことや、求人票デジタル化で求人情報を早く比較検討できたことなどが功を奏した。各々の適性を考慮して、幅広い視野で第一志望先を決定することが課題である。                                                |
| エ | 生徒が主体的に取り組む環境と雰囲気をつくり、達成感や自己肯定感、自己有用感を育む。                                                                                                                                   | 学校行事に対する生徒満足度80%以上。                                                 | 桃陵祭満足度100%。                                          | A | 桃陵祭満足度100%を達成した。桃陵祭において、一日開催や特別企画の実施、総合探究CMごとの出店など、新しい取組への挑戦が大きな要因と考えられる。                                                                          |
|   | 部活動や生徒会活動へ意欲を持って参加する生徒の割合を増やし、学校の活性化につなげる。                                                                                                                                  | 3部活以上の県大会出場。<br>部活動満足度80%以上。                                        | 陸上競技、ヨット、バドミントンの3部活が県大会以上出場。<br>部活動満足度91.7%。         | A | 県大会以上出場部活数、部活動満足度ともに目標を達成することができた。陸上競技とヨットでは東海大会にも出場し、活躍する姿が見られた。<br>部活動に参加している生徒は活動に満足している様子が見て取れるため、今後は部活動やその他の活動を3年間継続して努力することができる生徒が増えることを目指す。 |
| オ | HR、学年集会、全体集会などの教育活動の様々な場面で、道徳的価値を高める指導を通じ、生徒の人格形成を図り、自他を認め多                                                                                                                 | 学校生活アンケートにおける自己肯定感満足度前年比100%以上。                                     | 前年比93%。                                              | B | 自己肯定感を持てず、精神的に不安定な生徒が増加した。特に1, 2年生の値が低い傾向にあるため、日常のかかわりに加えSSTやスクールカウンセラーを活用して改善に努める。                                                                |

様式第3号

|   |                                                                                           |                                                                         |                                                                      |   |                                                                                                                                                  |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | 様性を尊重する態度を養う。                                                                             | 学校生活アンケートにおける友人関係満足度前年比100%以上。                                          | 前年比110%。                                                             | A | 相談室を毎日開放し、相談しやすい環境を整えたことが好影響を与えている。また、相談室と学年部の教員が密に相談したことで細やかなケアを行うことができた。                                                                       |
| カ | 読書環境を整備し、読書習慣を定着させ、読書量の増大及び質の改善を目指す。                                                      | 原則週に1回、図書室の開放をする。生徒が好む図書室環境へのリニューアルを行う。                                 | 原則週に2回、図書室を開放し、テーマ別に新着図書等の紹介を行った。                                    | A | 今年度の図書室の貸し出し数は140冊（昨年度80冊）であり、図書室を利用したことのある生徒は54%であった。来年は生徒1人あたり2冊以上の貸し出し数になるようにしたい。                                                             |
|   |                                                                                           | 平常授業日に朝読書を毎日実施する。                                                       | 平常授業日は、朝読書を毎日実施した。                                                   | A | 新着図書紹介だけでなく、オリンピックや芸術鑑賞会の時期に合わせた図書だよりの発行を今後も続けたい。                                                                                                |
| キ | 生徒が心身ともに安心して快適に過ごせるよう、生徒・保護者の健康管理に対する意識を向上させ、安心・安全な教育環境を整備する。                             | 朝食摂取率80%以上。                                                             | 第1回調査76.3%。<br>第2回調査89.7%。<br>平均83.0%。                               | A | 食育講座の時期を朝食摂取調査の前に実施したことで、目標値を上回ることができた。継続的な摂取率の向上が今後の課題である。                                                                                      |
|   | 特別支援教育の教員研修を実施する。特別支援計画の作成を実施する。個別面談体制の充実を図る。                                             | 90%以上の教諭が特別支援教育への理解を深める。                                                | 校内研修により100%の教員の理解が深まった。                                              | A | 研修会を通じ、教職員の特別支援教育への姿勢と理解を深めることができた。特別支援可視化シートも職員へ周知したことで合理的配慮が必要な生徒の情報共有を図ることができた。                                                               |
| ク | 生徒の危険への予測・対応力を育成するとともに、奉仕活動等を通じて地域貢献意欲を高める。                                               | ウルトラ大掃除や通学路清掃など奉仕活動を年2回以上実施する。                                          | ウルトラ大掃除の実施と、各学期2回以上、学年での通学路清掃を行った。                                   | A | ウルトラ大掃除で近隣地域の清掃活動を行うことができた。また、各学年で通学路清掃を年4回計12回実施することができ、生徒の積極的な意識向上がうかがえる。                                                                      |
|   |                                                                                           | 地域防災訓練参加率を50%以上達成する。                                                    | 地域防災訓練参加率22.2%。                                                      | B | 大雨の影響で、訓練が行われなかった地域があった。参加率は低かったが、昨年よりは上昇した。                                                                                                     |
| ケ | 広報活動を充実させ、生徒・保護者・地域に対し、学校の特徴的な取り組みや成果についての理解を広め、生徒募集の増加につなげる。地域との連携を深め、地域に根ざした教育を実践することによ | 中学校訪問（2か月に1回程度）、生徒による母校訪問、HP更新（週1回）、Instagram更新（週平均2回以上）により、広報活動により本校を認 | 中学校訪問年間76回（昨年度71回）。HP更新月平均1.7回（昨年度2.3回）。Instagram更新週平均1.2回（昨年度3.2回）。 | C | 管理職および運営委員による中学校訪問を実施し、本校の特徴を理解してもらったが、体験入学やオープンスクール参加者の伸びは多くなかった。Instagramはフォロワー数が1,000人を突破し、在校生だけでなく保護者や中学生もホームページよりもSNSで情報収集している様子が伺えた。しかし、HP |

様式第3号

|   |                                                                     |                                                                                  |                                                                                        |   |                                                                                                                                                                                                                            |
|---|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | り、地域から信頼される学校づくりにつなげる。                                              | 知するきっかけとなった新生 50%以上を達成する。                                                        |                                                                                        |   | やInstagramの更新が一部の教員に偏っている現状もあり今年度は投稿数がどちらも減少した。来年度に向けて1年生が外部講師より効果的な広報についての学びを始めた。                                                                                                                                         |
|   |                                                                     | オープンスクール参加者数30人以上、一日体験入学参加者数80人以上を達成する。                                          | オープンスクールの2回実施し、計48人の参加があった。一日体験入学は66人の参加であった。                                          | B | 昨年度1回だったオープンスクールの今年度は2回実施した。一日体験入学では探究活動に特化した内容を実施した。魅力的な授業を用意できたと思うが時間設定や広報の方法を検討していきたい。                                                                                                                                  |
|   |                                                                     | PTA総会の参加率を50%以上にする。                                                              | PTA総会参加率38.1%。<br>PTA三役会参加率79.2%。<br>PTA役員会参加率40.4%。                                   | B | 総会の参加率は、目標を達成することはできなかったが、昨年よりは良くなっている。三役会の参加率は目標を大きく上回った。役員会の参加率をもう少し高めていきたい。                                                                                                                                             |
| コ | 外郭団体等と連携し、生徒が国際感覚を身につける場を提供し、積極的な交流により多様な文化への理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。 | 地域のインバウンド対応を教材とし、講師招請を行い探究活動することで、情報収集能力、課題解決能力の育成を図る。総合的な探究の時間の授業満足度を80%以上達成する。 | 探究の時間において、熱海市周辺の企業やNPO法人、自治体職員の方々を講師に招いたり、生徒が直接フィールドワークに赴いたりするなど、情報収集能力、課題解決能力の育成を図った。 | A | 生徒の授業満足度は96%であった。「行きたい学校づくり推進事業」と「はごろも教育研究助成賞」の予算を上手く活用して、ユニークな探究活動を実施できた。<br>今年度は教員にとっても生徒にとっても楽しく学べる活動が多かった。ただ、外郭団体等の連携において、特定の教員に業務が集中することがあったため、今後は、3年間で育てたい能力を元に、長期的な視野で活動計画を立てることで、業務を分散し、小規模校でも自走できる探究活動の仕組みを構築したい。 |
| サ | 生徒や職員が安心して過ごせる教育環境を整える。                                             | 施設設備の巡回点検月1回施設設備に係る生徒事故0件。                                                       | 施設設備の巡回点検は月1回実施できた。施設設備に係る生徒事故は0件であった。                                                 | B | 職員安全衛生委員会などから提供された情報により改善や修繕を行った。<br>建物の老朽化に伴う修繕については、継続して予算を確保するため県へ要求していく。                                                                                                                                               |

様式第 3 号

|   |                                                                           |                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                          |   |                                                                                                                                                                                                                                   |
|---|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| シ | <p>学校組織や業務分担の見直し、行事等の教育活動の精選、時間外勤務時間の削減を通して、生徒に対する効果的な教育活動を行う環境を整備する。</p> | <p>時間外業務時間の対前年比減少。<br/>完全退庁時間(20 時)の徹底業務改善を意識した教職員の割合 100 % (意識調査)。<br/>タイムマネジメント、業務の効率化・デジタル化、部活動ガイドラインに則った実施等に関する意識付けのための情報提供年間(10 回以上)と研修の実施(年度当初)。</p> | <p>12 月時点での前年の総時間外勤務時間で比較すると、令和 5 年度は 466 時間、令和 6 年度は 460 時間で微減であった。<br/>完全退庁時間(20 時)を超えた日数は 12 月末時点で 82 日(44%)であった。<br/>業務改善を意識した教職員の割合は、100 % となった。<br/>タイムマネジメントに関する研修を実施したが、情報提供についてはほとんどできなかった。</p> | C | <p>令和 5 年度に比べて時間外勤務の総時間は減少した。学校祭の開催日数を 2 日間から 1 日にしたことが一因である。<br/>学校行事が多い月と少ない月が確認できたので、次年度は、行事の開催時期が偏らないよう計画する。<br/>教職員全員が時間外勤務を減らすために業務改善を意識しているが、情報提供ができていなかったもので、次年度は、勤務時間管理システムのデータなどを活用し、情報提供を積極的に行い、時間外勤務時間の更なる削減を目指す。</p> |
|---|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|